

## CONTENTS

はじめに	3
本書の読み方	5

## 第1章 新国際秩序の構築

第1幕	ハイエナのごとく 列強三巨頭の確執	11
第2幕	妥協の産物 国際連盟	31
第3幕	勝利なき平和？ ヴェルサイユ条約	43
第4幕	米英仏の思惑 対ソ防疫線の構築	59

## 第2章 イタリア全体主義

第1幕	「戦闘者同盟」の登場 戦後イタリアの混乱	69
第2幕	黒シャツ隊迫る！ ローマ進軍	79
第3幕	我々は古代ローマの末裔である！ ムッソリーニ独裁への道	87
第4幕	国民に媚びながら ファシズム体制の確立	95

## 第3章

# ヴァイマル共和国

- |     |                                    |     |
|-----|------------------------------------|-----|
| 第1幕 | 画家を夢見て<br>ヒトラーの生い立ち                | 103 |
| 第2幕 | 「世界でもっとも民主的な憲法」とともに<br>ヴァイマル共和国の成立 | 111 |
| 第3幕 | ミイラ取りがミイラに<br>ヒトラーの政治家転身           | 117 |
| 第4幕 | 鉤十字のもとに<br>国家社会主義ドイツ労働者党の結成        | 127 |
| 第5幕 | 大山鳴動して鼠一匹<br>カップー揆                 | 135 |
| 第6幕 | 第二次世界大戦の火種<br>ドイツ賠償金の決定            | 143 |
| 第7幕 | 支払えないというならば<br>ルール出兵               | 153 |

## 第4章

# ナチスの抬頭

- |     |                                   |     |
|-----|-----------------------------------|-----|
| 第1幕 | 「家1軒」が「マッチ1箱」に<br>ハイパーインフレーションの発生 | 161 |
| 第2幕 | 革命への銃声<br>ミュンヘン一揆の発生              | 167 |
| 第3幕 | 覚悟のデモ行進<br>ミュンヘン一揆の失敗             | 175 |
| 第4幕 | 「私は有罪である」<br>ヒトラーの裁判と収監           | 185 |

## 第5章

## ナチスの退潮

- |     |                      |     |
|-----|----------------------|-----|
| 第1幕 | 資本のメリーゴーランド<br>ドーズ案  | 193 |
| 第2幕 | 対独恐怖症の処方箋<br>ロカルノ条約  | 201 |
| 第3幕 | 1枚の紙切れ…<br>パリ不戦条約    | 209 |
| 第4幕 | 現実的な返済計画<br>ヤング案     | 219 |
| 第5幕 | 熱弁は届かず<br>安定の中のナチス退潮 | 227 |

## 第6章

## ナチスの独裁

- |     |                          |     |
|-----|--------------------------|-----|
| 第1幕 | 誤った治療法<br>フーヴァーモラトリアム    | 233 |
| 第2幕 | 借金棒引きの大サービス<br>ローザンヌ会議   | 241 |
| 第3幕 | 大恐慌を糧にして<br>ナチスの大躍進      | 249 |
| 第4幕 | 共産党躍進の末に<br>ヒトラー内閣の成立    | 257 |
| 第5幕 | ヴァイマル憲法の葬送<br>全権委任法の制定   | 271 |
| 最終幕 | 国民革命は終わった！<br>ナチス独裁体制の成立 | 279 |

## Column コラム

条約の締結	42
不思議な国境線	52
仏独報復戦	58
国際秩序とは？	73
イタリア王国と教皇	102
ヒトラーは伍長？	126
金のマルクと紙のマルク	152
ビュルガープロイケラー	184
戦間期20年を俯瞰する	208
不戦条約と満州事変	218
世界大恐慌	226
国家社会主義	278
天敵の料理法	288